あいさつ

鎌田　俊彦（文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 課長）

本日はご多用のところ、首都圏レジリエンスプロジェクトのデ活シンポジウムに、各界でご活躍されている多数の方々にご参加、ご視聴いただきますことを心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の状況下であることを踏まえ、オンラインでの開催となりましたが、災害対応においては IT 環境を駆使して柔軟・機敏に対応していくことが非常に大切なことと考えられます。本シンポジウムにおきましては、インタラクティブに参加できるシステムの活用や、参加可能人数の上限を大幅に増やすなどの工夫・改善を行いながら、開催準備が進められてきたと聞いています。

本シンポジウムでは、「今、改めて首都直下地震と向き合う～観測データを相互利活用するための課題～」と題し、改めて首都圏で大地震への備えを進めることの必要性や、官民が連携してデータを利活用していくことの重要性などについて議論を深めていただきたいと考えています。データ連携を進めるためには、技術的な課題の解決だけでは十分ではなく、データを提供する側と受ける側の双方が、課題解決に向けて一致協力することの重要性を共有することが大切だと考えます。首都圏レジリエンスプロジェクトおよびデータ利活用協議会は、こうした重要な課題に精力的に取り組んでおり、本シンポジウムでも、その取り組み状況等が示され、関係各界の方々のさらなる相互理解につながることを期待しています。

本シンポジウムが、わが国全体のレジリエンス総合力向上につながることを祈念し、私からのごあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いします。